



男女共同参画に関する

市では、昨年、無作為に抽出した市内の満20歳以上の男女1,500人を対象に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しました。「第2次荒尾市男女共同参画計画」が平成28年度で終了します。そのため、今回の調査を基礎資料とし、第3次計画の策定を進めていきます。ここでは意識調査の結果の一部を紹介します。詳しくは市ホームページをご覧ください。



▲「男女共同参画に関する市民意識調査の報告書」など男女共同参画に関する各種資料は、市役所2階の情報公開コーナーや、市立図書館でご覧いただけます

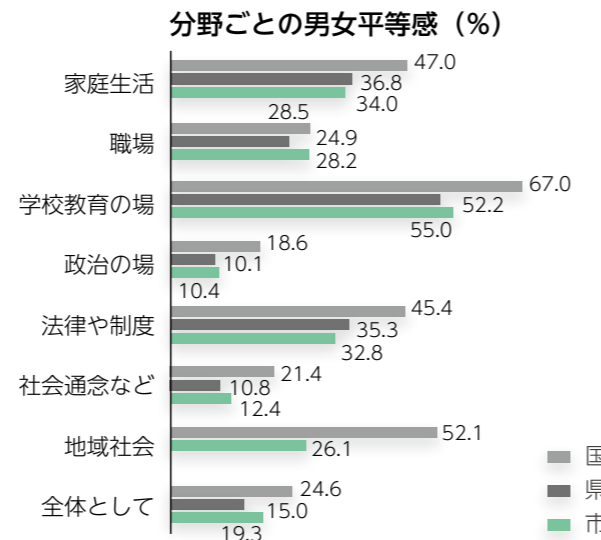
質問 社会のいろいろな場面で、男女は平等になっていると思いますか

結果

平等感が最も高いのは「学校教育の場」55.0%で平成22年度の前回調査46.2%や県民調査52.2%より高くなっており、荒尾市民の学校教育の平等感が高い結果となりました。

反対に最も平等感が低かったのは「政治の場」10.4%で、県民調査10.1%とほぼ同じ低さです。また、前回調査16.7%よりも低く、男性が優遇されていると感じている人の割合がとても高い結果となりました。

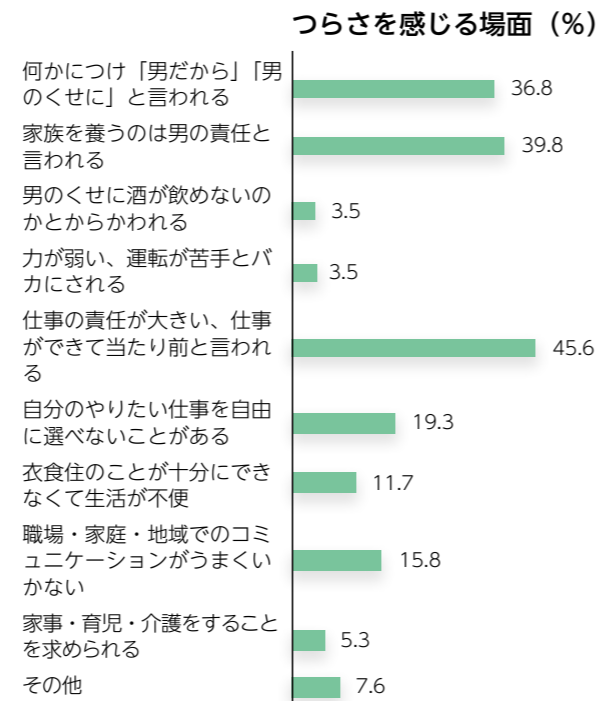
「学校教育の場」以外の全ての分野で、平等感よりも男性優遇感が高く、荒尾市民の男女の平等感低い結果となりました。



質問 「男もつらい」と感じることはありますか。どんなことをつらいと感じますか(対象:男性)

結果

78.4%の男性が「男もつらい」と感じ、「仕事の責任が大きい、仕事ができる当たり前と言われる」45.6%、「家族を養うのは男の責任だと言われる」39.8%、「何かにつけ『男だから』『男のくせに』と言われる」36.8%という回答が多く、男性も女性と同じように、従来の男らしさや日常生活での固定的な性別役割分担意識が原因の生きづらさを抱えていることがわかります。



市民意識調査の結果を公表します

企画総務課男女共同参画推進室 ☎ 63-1139

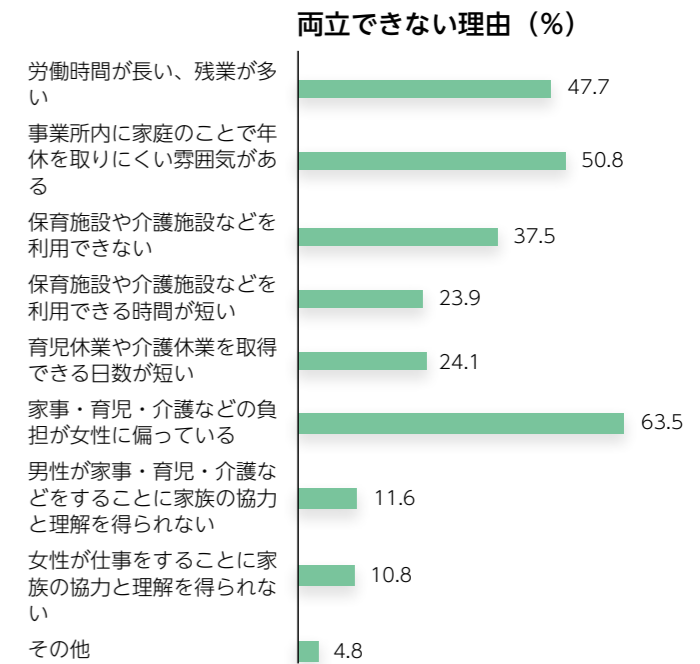
質問 男女が共に仕事と家庭を両立させる上での問題は何だと思いますか

結果

仕事と家庭を両立させる上での問題は「家事・育児・介護などの負担が女性に偏っている」63.5%が最も多く、次いで「事業所内に家庭のことで年休を取りにくい雰囲気がある」50.8%、「労働時間が長い・残業が多い」47.7%、「保育施設や介護施設などを利用できない」37.5%の順となりました。

性別では「労働時間が長い・残業が多い」47.7%は男性の割合が多く、「家事・育児・介護などの負担が女性に偏っている」63.5%は女性の割合が多くなっていました。

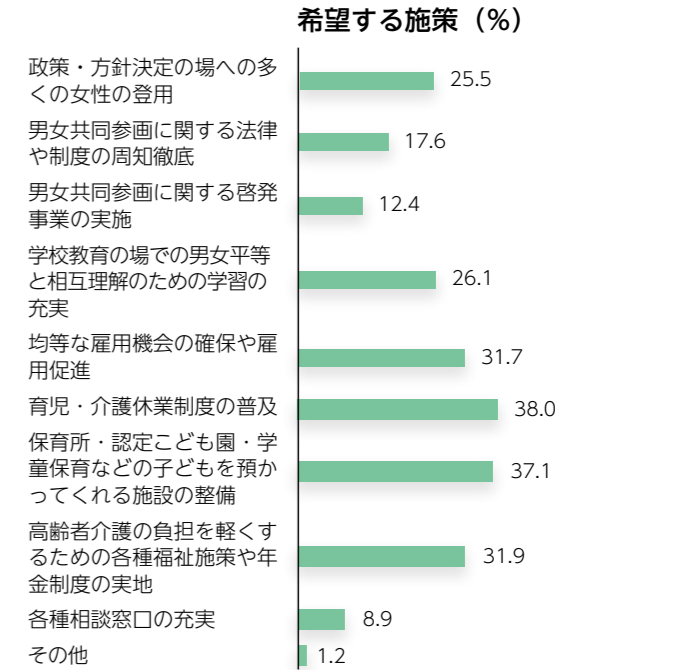
固定的な性別役割分担意識が根強く残っていることが、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の妨げとなっていると考えられます。



質問 市に対して、男女共同参画社会づくりのためにどんな施策を望みますか

結果

最も多かった回答は「育児・介護休業制度を普及させること」38.0%で、次いで「保育所・認定こども園・学童保育などの子どもを預かってくれる施設を整備すること」37.1%、「高齢者介護にかかる費用を軽くするため、各種福祉施策や年金制度を充実させること」31.9%、「均等な雇用機会の確保や雇用促進を図ること」31.7%でした。



市民意識調査の結果を踏まえて

一人一人の固定的な性別役割分担意識を解消するための啓発事業を行いながら、男女共同参画制度の普及や体制整備に向け、具体的な施策を検討していく必要性があります。

今年度策定する「第3次荒尾市男女共同参画計画(仮名)」には、国や県の動向を踏まえなが

ら、今回の調査で示された荒尾市の「区域の特性に応じた施策(男女共同参画社会基本法第9条)」を策定しなければなりません。調査結果を基に荒尾市の実情を分析し、有効性のある計画を策定して、男女共同参画のさらなる推進を進めていきます。